

発行所

桐生厚生総合病院 中央検査科

責任者 梶田 幸夫

理念 臨床検査の質的向上と信頼性の確保

2025 年 10 月発行

百日咳について

● 百日咳とは ～咳が 100 日続くの？ 長引く咳,それは百日咳かも～

百日咳は百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) に感染することにより発生する急性呼吸器感染症で、名前の通り約 100 日 (3 ヶ月) にわたって咳が続くことがあります。子どもに多い病気として知られていますが、おとなも感染する可能性があります。乳児(特に新生児や乳児期早期)では重症になり、肺炎、脳症を合併し重篤化する場合があります。

主に感染者の咳やくしゃみのとき飛び散るしぶきを吸い込むこと (飛沫感染) や、汚染された手指を介して目、口、鼻に触れること (接触感染) によってうつります。



咳やくしゃみで
うつります

● 症状

長期に渡る症状が特徴ですが、主な症状は以下の 3 期に分けられ、約 2～3 か月で回復するとされています。

- ① カタル期 (1～2 週間) : 風邪のような症状 (鼻水・軽い咳・微熱)
- ② 痙咳期 (2～6 週) : 発作的な激しい咳、咳の後にヒューという音、嘔吐
- ③ 回復期 (数週間～数か月) : 徐々に咳がおさまる

こんなときは百日咳を疑いましょう

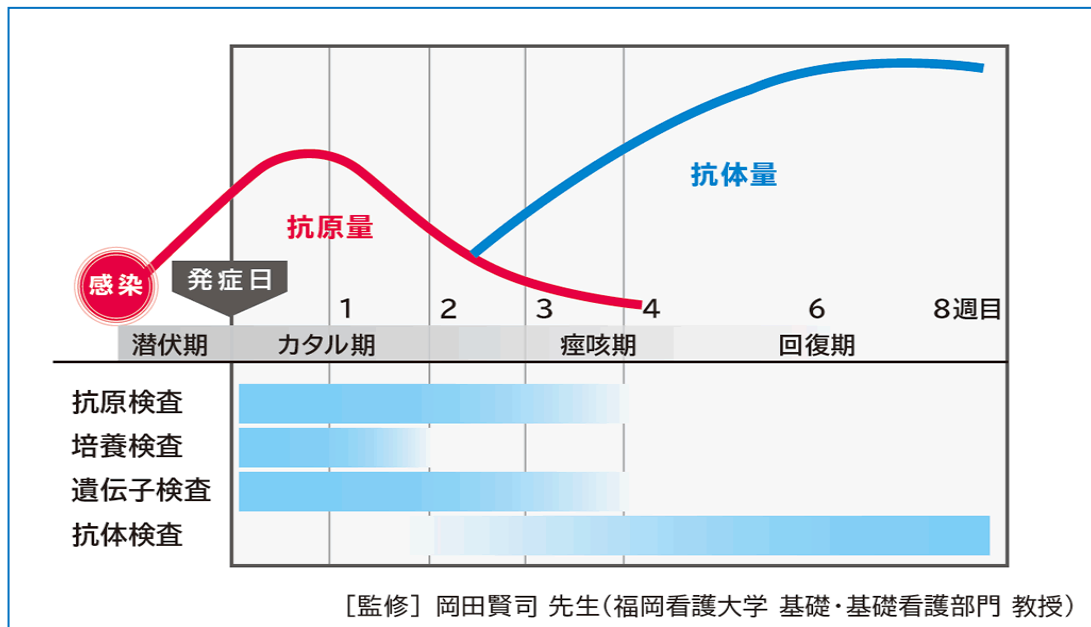
- ・ 2 週間以上咳が続く
- ・ 咳込みが強く、息が苦しい
- ・ 夜間咳で眠れない
- ・ 家族や職場、学校で百日咳が出ている



● 検査方法とタイミング

病態に適した検査方法があり、当院の院内検査では咳が続く発症から 1～3 週くらいに有効な「抗原検査」を行っています。鼻のぬぐい液で検査を実施し、結果がすぐに分かるため、早期診断、治療に役立ちます。

そのほかの検査についても当院から外部委託検査として受諾可能です。それぞれ検査のタイミングについては裏面の図をご覧ください。



図：検査方法とタイミング（極東製薬工業株式会社 HP より引用）

● 治療について

細菌による感染症であるため抗菌薬が有効であり、マクロライド系薬等が用いられます。発症初期（咳が始めてから2週間以内）に使用すると菌を早く減らしたり、他の人への感染を防ぐことができます。お薬が処方された場合は最後まで飲み切ることが大切です。

また、咳が長く続くと体力を消耗するため咳を抑える薬（鎮咳薬）や吸入治療などもあり、水分補給に気を付け安静を心掛けてください。



● 予防 ～日常でできる予防とワクチン～

○日常でできる予防

- ・咳エチケット マスクやハンカチで口を覆う
- ・こまめな手洗い、換気
- ・咳が長引く場合は早めに医療機関を受診



咳エチケットと早めの受診

○ワクチン接種

5種混合ワクチン（DPT-IPV-Hib）等の接種が有効です。標準的な接種時期としては生後2か月から生後12か月未満で3回接種を行い、初回接種から1年後（おおむね1歳ころ）に1回、計4回の接種をします。

ただし、百日咳ワクチンの効果は一生続くわけではなく、接種後3～5年で徐々に弱まり、中学生くらいにはなくなるとされています。効果が薄れた大人がかかり感染源となることもあるため、追加接種し再度免疫を強化することも有効です。



※参考資料：厚生労働省ホームページ

極東製薬工業株式会社（百日咳の診断と治療）

「四つ葉のクローバー」は当院のホームページ（インターネット）で公開しています。

ご参照ください。

ホームページアドレス <https://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>

